

II 油糧種子

1 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省(USDA)の見通し>

【生産量】 2016/17年度 前年度比 ↑ 前月比 ↑

生産量は、米国で減少するものの、ブラジル、インド等で増加することから、世界全体では前年度を上回り、史上最高の326.0百万トンとなる見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で上方修正され、国別には、米国、カナダで上方修正された。

【消費量】 2016/17年度 前年度比 ↑ 前月比 ↑

消費量は、アルゼンチン等で減少するものの、中国、インド等で増加することから、世界全体では前年度を上回り、史上最高の328.8百万トンとなる見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で上方修正され、国別には、ブラジル、米国で上方修正された。

【貿易量】 2016/17年度 前年度比 ↑ 前月比 ↑

世界全体の貿易量は、前年度より増加し、138.3百万トンとなる見込み。国別には、輸出国では、米国、ブラジル等で増加し、アルゼンチン、カナダで減少する見込み。輸入国では、中国等で増加し、EU等で減少する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で上方修正され、輸出国では、米国、カナダで上方修正された。

【期末在庫量】 2016/17年度 前年度比 ↓ 前月比 ↑

期末在庫量は、前年度より減少し、世界全体では67.1百万トンとなる見込み。国別には、EUで在庫が積み増しされるものの、アルゼンチン、中国等で取り崩される見込み。期末在庫率は20.4%と、前年度より低下する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で上方修正され、国別には、米国、EUで上方修正、ブラジルで下方修正された。

図-1 世界の大豆のシェア (2016/17年度)

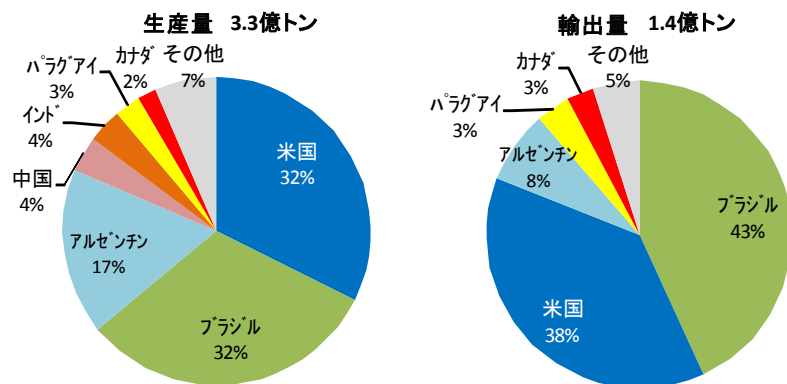


表-1 世界の大豆需給 (米国農務省)

(単位:百万トン)

年度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	319.7	312.4	326.0	2.3	4.4
米国	106.9	106.9	105.6	2.2	▲ 1.2
ブラジル	97.2	96.5	103.0	-	6.7
アルゼンチン	61.4	56.5	57.0	-	0.9
中国	12.2	11.6	12.2	-	5.2
インド	8.7	7.0	11.7	-	67.1
パラグアイ	8.1	8.8	9.0	-	2.3
カナダ	6.0	6.2	6.3	0.2	0.2
消費量	300.8	317.3	328.8	0.8	3.6
うち搾油用	263.3	279.2	289.2	0.8	3.6
中国	87.2	95.3	100.8	-	5.8
米国	54.9	54.4	55.8	0.3	2.5
アルゼンチン	44.2	50.1	48.8	-	▲ 2.6
ブラジル	43.4	43.7	43.6	0.5	▲ 0.2
EU	15.1	15.3	14.9	-	▲ 2.9
インド	8.5	7.6	10.9	-	43.5
ロシア	4.0	4.5	4.7	-	3.3
貿易量	126.2	131.6	138.3	0.5	5.0
(輸出)					
ブラジル	50.6	57.2	59.7	-	4.4
米国	50.2	48.9	52.3	0.5	7.0
アルゼンチン	10.6	11.4	10.7	-	▲ 6.6
パラグアイ	4.5	4.6	4.8	-	3.3
カナダ	3.9	4.3	4.2	0.2	▲ 2.9
(輸入)					
中国	78.4	83.0	87.0	-	4.8
EU	13.4	13.2	12.6	-	▲ 4.5
メキシコ	3.8	4.0	4.0	-	1.3
日本	3.0	3.1	3.1	-	-
台湾	2.5	2.6	2.6	-	2.0
タイ	2.4	2.4	2.5	-	4.3
トルコ	2.2	2.3	2.3	-	▲ 2.2
期末在庫量	78.4	72.2	67.1	0.8	▲ 7.0
アルゼンチン	31.9	27.0	24.7	-	▲ 8.7
ブラジル	19.5	15.5	15.5	▲ 0.1	-
中国	17.0	16.2	14.5	-	▲ 10.8
米国	5.2	9.5	7.9	0.8	▲ 17.2
EU	0.7	0.6	0.6	0.1	5.1
期末在庫率	26.1%	22.7%	20.4%	0.2	▲ 2.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「PS&D」、 「Oilseeds: World Markets and Trade」 (12 July 2016)

(2) 大豆の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】（詳細は右表を参照）

<米国農務省の見通し>

生産量は、収穫面積が増加するものの、単収が低下することから、前年度より減少し、105.6百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度より増加し、55.8百万トンとなる見込み。

輸出量は、前年度より増加し、52.4百万トンとなる見込み。

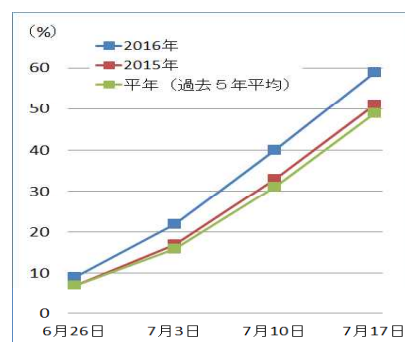
期末在庫量は、前年度より減少し、期末在庫率も7.3%に低下する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、2015/16年度の輸出量で上方修正、消費量、輸入量、期末在庫量で下方修正、2016/17年度の実産量、消費量、輸出量で上方修正された。結果として、期末在庫量が上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

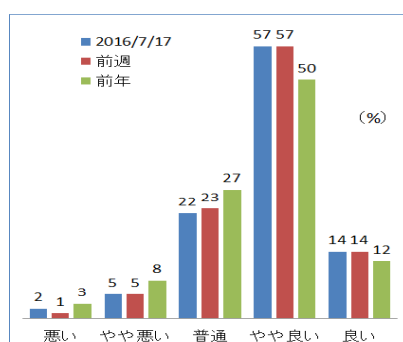
米国の大豆生産地の大部分において、例年、播種作業は5月上旬から始まり6月上旬まで行われる。2016/17年度の播種作業は、2016年4月中旬頃から開始された。中西部では4月下旬より冷涼湿潤型の天候が続き、播種作業に遅れが生じ、特にオハイオ州とインディアナ州では、多雨によりほ場が冠水するなどの被害が発生したが、5月中旬以降は概ね天候に恵まれ作業の遅れを取り戻した。米国農務省(USDA)「Crop Progress」(2016.7.18)によれば、2016年7月17日現在、主要18州の大豆の開花進捗率は59%と、前年同期(51%)及び平年同期(49%)を上回っている。また、着莢進捗率も18%と、前年同期(14%)及び平年同期(13%)を上回っている。作柄評価は、良/やや良が71%と、前年同期(62%)を上回り順調に生長している。

図-2 大豆の開花進捗率



資料：USDA「Crop Progress」(2016.7.18) もとに農林水産省で作成

図-3 大豆の作柄評価



我が国の輸入先国シェア 1位 (2015年数量ベース71.9%)
 世界の生産量シェア 1位 (2016/17年度 32.4%)
 輸出量シェア 2位 (2016/17年度 37.8%)

表-2 米国の大豆需給 (市場年度：9月～翌年8月)

年度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	106.9	106.9	105.6	2.2	▲1.2
消費量	54.9	54.4	55.8	0.3	2.5
うち搾油用	51.0	51.4	52.4	0.3	1.8
輸出量	50.2	48.9	52.3	0.5	7.0
輸入量	0.9	0.7	0.8	-	20.6
期末在庫量	5.2	9.5	7.9	0.8	▲17.2
期末在庫率	4.9%	9.2%	7.3%	0.7	▲1.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.42	33.11	33.60	0.66	1.5
単収(t/ha)	3.20	3.23	3.14	-	▲2.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「World Agricultural Production」(12 July 2016)

写真-1 ミシガン州パリミラ (2016年6月28日撮影)
 -大豆に散布機で除草剤を散布している。-



写真提供：ローリー・イスレイさん

イ ブラジル

【需給状況】（詳細は右表を参照）

<米国農務省の見通し>

生産量は、前年度より増加し、史上最高の103.0百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度より減少し、43.6百万トンとなる見込み。

輸出量は、前年度より増加し、59.7百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、前年度並み、期末在庫率は15.0%に低下する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、2015/16年度の消費量、輸入量、期末在庫量で上方修正、生産量、輸出量で下方修正、2016/17年度の消費量で上方修正された。結果として、期末在庫量が下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2015/16年度の播種作業は、2015年10月初旬から開始された。マログロソ州では、乾燥型の天候が続き作業開始が遅れが生じたが、10月中旬以降、降雨による土壌水分の回復に伴い、作業は急速に進展した。一方、リオグランデ・ド・スル州では、9月の豪雨とその後の多雨がちな天候により作業が遅れが生じたが、12月下旬までに全ての作業を終了した。中西部のマトグロソ州及び北東部のパイア州等では、生育期間を通じて降雨不足に悩まされ、単収が低下する見込み。収穫作業は、多雨により遅れが生じたリオ・グランデ・ド・スル州を除き、2016年4月中旬までにはほぼ終了した。

国際穀物理事会(IGC)「Grain Market Report」(2016.7.1)によれば、2016/17年度の播種面積は、中央部を中心に拡大するが、南部では夏とうもろこしの競合により面積の増加が制限されると見込まれる。また、2016年9月以降に始まる播種時期での国際価格に左右される面が大きく、不安定な為替相場や高金利等による経済的苦境により面積の増加が制限される可能性もある。

2016/17年度の実生産量は、2015/16年度(95.6百万トン)を5.6%上回り、101.0百万トンとなる見込み。

【貿易情報】

ブラジル農務省「AGROSTAT」によれば、2016年6月の大豆の輸出量は、前月同期比22%減、前年同期比21%減の7.8百万トンとなった。ルセフ大統領の弾劾裁判など政権交代に対する期待から2016年年初頭に4.20レアル/ドルであった為替相場は、直近(7月1日)では3.20レアル/ドル近辺へとレアル高が進行しており、6月下旬に政府による為替介入が行われ反転に転じたものの、依然として輸出を左右する大きな要因となっている。

なお、2016年1～6月の大豆の輸出量は、前年同期比18.8%増の38.3百万トン。国別には、中国(29.5百万トン)が最も多く全体の76.9%を占め、次いでスペイン(1.3百万トン)、オランダ(1.1百万トン)、タイ(0.9百万トン)となっている。

我が国の輸入先国シェア 2位 (2015年数量ベース 15.7%)
世界の生産量シェア 2位 (2016/17年度 31.6%)
輸出量シェア 1位 (2016/17年度 43.2%)

表-3 ブラジルの大豆需給 (市場年度: 10月～翌年9月)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	97.2	96.5	103.0 (102.0)	-	6.7
消費量	43.4	43.7	43.6 (…)	0.5	▲ 0.2
うち搾油用	40.4	40.7	40.5 (…)	0.5	▲ 0.5
輸出量	50.6	57.2	59.7 (…)	-	4.4
輸入量	0.3	0.4	0.3 (…)	-	▲ 14.3
期末在庫量	19.5	15.5	15.5 (20.5)	▲ 0.1	-
期末在庫率	20.7%	15.3%	15.0% (…)	▲ 0.2	▲ 0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	32.10	33.10	34.20 (33.70)	-	3.3
単収(t/ha)	3.03	2.92	3.01 (3.03)	-	3.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2016)
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」(17 June 2016)

写真-2 パラナ州 (2016年7月6日撮影)
- 収穫された大豆の搬入 -



写真提供: Thiago Terabe 氏

ウ アルゼンチン

【需給状況】（詳細は右表を参照）

<米国農務省の見通し>

生産量は、前年度より増加し、57.0百万トンとなる見込み。
消費量は、前年度より減少し、48.8百万トンとなる見込み。
輸出量は、前年度より減少し、10.7百万トンとなる見込み。
期末在庫量は、前年度より減少し、期末在庫率も41.5%に低下する見込み。
なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2015/16年度の播種作業は、低温により作業の開始が遅れ、2015年10月下旬から開始された。産地の大部分で土壌水分は良好となり、作業は順調に進展、2016年1月下旬までに終了した。4月に入り、主産地で過度な降雨が続き、冠水や洪水により、収穫ロスや品質劣化などの被害が発生、特に、エントレリオス州及びサンタフェ州では深刻な被害が生じた。4月下旬以降は乾燥型の天候に恵まれ収穫作業が進展し、ブエノスアイレス穀物取引所週報(2016.7.14)によれば、2016年7月14日現在、収穫進捗率は97.7%とブエノスアイレス州南東部及び南西部とラパンパ州南部を除き終了した。

2016年6月23日、アルゼンチン農産省は、2015/16年度の生産量を58.0百万トンと、前月(57.7百万トン)から若干引き上げた。2016年4月に多雨型の天候や洪水に見舞われて以降、ブエノスアイレス州やラパンパ州では依然として土壌水分過多の状態が続いているが、コルドバ州やサンタフェ州では予想以上にダメージの回復が進み、高単収が報告されているという。

【貿易情報・その他】

報道(2016.7.20)によれば、アルゼンチンの大豆輸出税はマクリ大統領の掲げた選挙公約通り、2015年の35%(大豆粕/大豆油は32%)から2016年1月に5%引下げられたが、最近では同国財源に対する懸念から2017年は引下げ見送り又は2.5%の引下げに止まるとの見方が浮上している。引下げ見送りとなれば、2016/17年度は大豆からとうもろこしへの転作が進み、とうもろこしの播種面積は大きく増加すると見込まれている。

種子の知的所有権について、アルゼンチンの現行種苗法は、改良品種の種子の自己使用、改良品種の種子から生産されたものを、食料及び加工原料として使用及び販売することは知的所有権の侵害に該当しないと定めている(同法第27条)。農業生産者は改良品種の自己使用に特許料を支払う必要がなく、このことが、モンサントを含む欧米企業との間で大きな問題となっていた。

報道(2016.6.24)によれば、2016年6月23日、同国ブルジャイレ農産大臣は、知的所有権の保護を求めるモンサントの要求に基づき、今後は国家種苗院(INASE)が大豆の検査を行うことを明らかにした。違法又は未申告の大豆と判明した場合、生産者には法に基づき処罰が課せられることになる。モンサント等の遺伝子組換え技術を有する企業は、INASEの検査結果に基づき生産者に特許使用料を請求することができるようになる。また、政府は、近く、種苗法の改正法案を下院に提出するとのこと。

（世界の生産量シェア 3位 (2016/17年度 17.5%)
輸出量シェア 3位 (2016/17年度 7.7%)）

表-4 アルゼンチンの大豆需給 (市場年度: 10月~翌年9月)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	61.4	56.5	57.0 (58.3)	-	0.9
消費量	44.2	50.1	48.8 (…)	-	▲ 2.6
うち搾油用	40.0	45.7	44.3 (…)	-	▲ 3.1
輸 出 量	10.6	11.4	10.7 (…)	-	▲ 6.6
輸 入 量	0.0	0.1	0.1 (…)	-	-
期末在庫量	31.9	27.0	24.7 (27.0)	-	▲ 8.7
期末在庫率	58.3%	44.0%	41.5% (…)	-	▲ 2.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	19.34	19.40	19.45 (19.00)	-	0.3
単収(t/ha)	3.17	2.91	2.93 (3.07)	-	0.7

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2016)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(17 June 2016)

写真-3 ブエノスアイレス州 (2016年7月2日撮影)
- 6月中旬に収穫を終えた大豆畑 -



写真提供: Ricardo Hara 氏

エ カナダ

【需給状況】（詳細は右表を参照）

<米国農務省の見通し>

生産量は、前年度より増加し、6.3百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度並みの2.5百万トンとなる見込み。

輸出量は、前年度より減少し、4.2百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、ほぼ前年度並み、期末在庫率は4.6%に低下する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は、2015/16年度の輸出量、期末在庫量で上方修正、消費量で下方修正、2016/17年度の実産量、輸出量で上方修正された。結果として、期末在庫量が上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

カナダ農務農産食品省「Outlook for principal field crops」(2016.6.17)によれば、2016/17年度の実産量は、マニトバ州の播種面積が10%増加したものの、オンタリオ州で冬小麦への転換に伴い大幅に減少したことから、5.4百万トンと前年度(6.2百万トン)を14%下回る見込み。

州別の作物報告によれば、サスカチュワン州では、概ね温暖で乾燥した天候に恵まれ、播種作業は平年を上回るペースで進展し2016年5月末までにほぼ終了した。7月11日現在、一部で降雨過多による被害が発生しているものの、大部分の地域で作柄は良好となっている。マニトバ州では、冷涼湿潤型の天候に見舞われ播種作業が遅れが生じたが6月上旬までにほぼ終了した。7月18日現在、作柄は概ね良好となっている。

オ 中国

【需給状況】（詳細は右表を参照）

<米国農務省の見通し>

生産量は、前年度より増加し、12.2百万トンとなる見込み。

消費量は、堅調な搾油需要から前年度より増加し、100.8百万トンの見込み。

輸入量は、消費量の増加により前年度より増加し、87.0百万トンの見込み。

期末在庫量は、前年度より減少し、期末在庫率も14.3%に低下する見込み。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄等】

2016/17年度の実産量は2016年4月上旬から開始され、5月末までにほぼ終了した。中国中央気象台によれば、7月16日現在、東北部の大部分で開花期に入っており、長江下流域では三葉期に入っている。作柄は総じて良好。

現地報道(2016.6.17)によれば、東北部ではとうもろこしの播種面積が約200万ヘクタール減少し、大豆の播種面積が約40万ヘクタール増加した。内モンゴルでも大豆の播種面積が前年度と比べ4万ヘクタール増加している模様。

我が国の輸入先国シェア3位（2015年数量ベース 11.3%）
世界の生産量シェア 7位（2016/17年度 1.9%）
輸出量シェア 5位（2016/17年度 3.0%）

表-5 カナダの大豆需給（市場年度：8月～翌年7月）

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17			
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	6.0	6.2	6.3 (5.4)	0.2	0.2	
消費量	2.3	2.5	2.5 (2.2)	-	-	
うち搾油用	1.8	2.0	2.0 (…)	-	-	
輸出量	3.9	4.3	4.2 (3.5)	0.2	▲ 2.9	
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.3)	-	▲ 4.3	
期末在庫量	0.5	0.3	0.3 (0.3)	0.1	▲ 6.2	
期末在庫率	7.6%	4.8%	4.6% (5.3%)	1.4	▲ 0.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	2.24	2.20	2.20 (2.13)	0.06	-	
単収(t/ha)	2.71	2.83	2.84 (2.51)	0.01	0.4	

資料：USDA「PS&D」、 「Oilseeds: World Markets and Trade」

「World Agricultural Production」 (12 July 2016)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」 (17 June 2016)

世界の生産量シェア 4位（2016/17年度 3.7%）
輸入量シェア 1位（2016/17年度 64.0%）

表-6 中国の大豆需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17			
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	12.2	11.6	12.2 (11.8)	-	5.2	
消費量	87.2	95.3	100.8 (…)	-	5.8	
うち搾油用	74.5	81.8	87.0 (…)	-	6.4	
輸出量	0.1	0.2	0.2 (…)	-	-	
輸入量	78.4	83.0	87.0 (…)	-	4.8	
期末在庫量	17.0	16.2	14.5 (…)	-	▲ 10.8	
期末在庫率	19.5%	17.0%	14.3% (…)	-	▲ 2.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.80	6.44	6.80 (6.35)	-	5.6	
単収(t/ha)	1.79	1.80	1.79 (1.86)	-	▲ 0.6	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」 (12 July 2016)

OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」 (17 June 2016)